

●2019年（平成31年）はどういう年？

毎年、この時期になりますと皆様から、来年はどう云う年になりますかと聞かれ、ご披露を始めてから、十二支で例えますと、いつの間にかふた周り目を過ぎてしまいました。

と云う、次第でございまして、例年より、若干遅め乍ら、本年度の占いを少しご披露させて頂き度いと存じます。

まず、占いは、そもそも遠い昔、殷の時代に、其の源流を持っています。この時代あたりから人々は長い時間をかけて森羅万象、世の全てを注意深く観察することで、物事にはことごとく一定の巡り合わせや、変えようの無い流れが、あるのではないかと云うことに気が付き始めたのです。

しかし、この殷と云う国は、基本的には狩猟民族国家でしたので、あちこちと転々して、いかんせん腰がなかなか据わらなかった。観察はじっくりと行うものですからね。

時代変わって軍師太公望率いる周が殷を滅ぼします。ご存

じのように太公望は占いに大変通じておられた、易の大家でもあったのですが、更に漢の時代に入ってから、術としての占いは飛躍的に発展して行きます。漢は農耕民族らしく、落ち着いて物事を計画的に考え、行動しました。まさに単なる占いから暦学に進化発展を遂げることとなります。

易の歴史は古くは、伏羲（ふっき）が作りました先天八卦から始まり、後に文王が後天八卦応を完成させます、そして現代の白陽八卦に至っているわけです。

その意味から申し上げるなら、本日私が皆さんにお話する占いは、この暦学のレベルに達した厚みのある占いとでも解釈頂ければと存じます。従い、ちょっと其の手法につき能書を垂れることをお許し頂きたいと思います。

占いの基本は干支（えと）です。干支は十干（じっかん）と十二支から成り立っています。巷間よく、あの人は猪年生まれだから猪突猛進タイプで闇雲に突っ走るの要注意です、

と云った類の話を小耳に挟むことがあります。このような例えは、必ずしも当たっていません。十二支は、子（ね）から始まり亥（い）で終わる 12 年間周期の流れですが、ねずみや牛などのエトは、後代の人が勝手に当てはめたものに過ぎず、各動物の性格やイメージなどから、部分的に当たっていると思われるかも知れませんが、実はエトと、其の年の傾向や人の性格の間には、さほどの相関関係はないのです。だいいち、お前さんはトリ年生まれなんだから落ち着きがないんだよね、などどこじつけられたら、気の毒ではありませんか、

一方、十干（じっかん）の方は大切です。十干は、数を数える時の単位で、大げさに云えば数の原理乃至は数理と云えます。もとを正せば人間の指が両手合わせ 10 本あり、勘定をする時に、「物」と「数」とを対応させながら数えると云う基本動作から来ているんです。

つまり、数を数える時のもっとも身近な計算器だったわけです。右手の親指は甲、人差し指は乙と云うように、順番に小指の戊（ボ）まで行きますと、今度は左手親指の己（キ）

に移り小指の癸（キ）までたどり着きます。中国ではこの両手の指は「浣（かん）」あるいは「澣（かん）」と表記されていたのですが、いつしか「干（かん）」と称されるようになったのです。指 10 本の「十」と両手の指を意味する「干」を合わせた造語が、「十干」と云う訳であります。

よく「きのえ」とか「きのと」とはどう意味ですか、と云うご質問を頂きますので、一寸お時間を頂き、折角ですから種明かしをさせて頂きたいと思えます。

易学の基本は「陰陽五行」です。1/3/5/7/9 は奇数ですが、易では奇数と呼ぶ代わりに「陽」といいます。一方 2/4/6/8/10 は偶数とは云わずに「陰」と呼びます。しかし、この陰陽の意味は単なる数の性質を表すだけに止まりません。「陽」は剛、男、父、兄、天、能動的、春夏とすれば、「陰」はこれらに対応し柔、女、母、弟、地、受動的、秋冬となります。世界を二元論で捉えているわけですが、実は易の思想はもっと深いのです。例えば絶えず変化しながら季節は循環して行きます。春には夏が息づき、夏には秋が準備されているわけです、陰には陽が息づき、陽のなかには陰が既に出番を

待ち構えているのです。変化のなかに存在する不変の法則、ちょっと大袈裟な言い方ですが、宇宙の秩序や法則と云った極めて論理的なものなのです。

さて話しを本論に戻しましょう。広辞苑で「干支」をひいてみますと、そこには（「兄（え）弟（と）の意」）と出ています。そうです、「兄弟」の正しい読み方は「エト」なのです。これを十干に当てはめます。まず、最初の甲は「一」番目ですから奇数の「陽」即ち「兄（え）」が振り当てられます、次の乙は「二」番目ですから偶数の「陰」が振り当てられますので、「弟（と）」となります。この法則に基づいて最後まで続けますと、三（奇数）番目の丙は「兄（え）」、四（偶数）番目の丁は「弟（と）」、更に戊（ボ）＝兄（え）、己（キ）＝弟（と）、庚（コウ）＝兄（え）、辛（シン）＝弟（と）、壬（ジン）＝兄（え）、癸（キ）＝弟（と）となります。

陰陽に続き重要な要素に五行という考え方があります。起原は中国固有のものではなく、遠くバビロニアにあるとの説もありますが、この「五」は「五つの材料」で人間が生きて行くうえで欠かすことが出来ない材料や道具を、木・火・

土・金・水としてシンボライズしたものです。我々は‘「流行」に取り残されないように’などと、日常的に言いますが、この場合の「行」は、「めぐる」「めぐりめぐって変化する」という意味です。また「行用」の「行」には「行う」「利用する」「使う」の意があります。総じて「行」とは天をめぐり、人間が利用することを意味しているのです。易学では、五行即ち木火土金水が、天の監視のもと、天上を絶えることなく駆け巡り、其の五気を天が人々に与えることで、人間は生命を保ち、更にはこれらを材料や道具として日々の生活に役立てることができると考えるのです。「五」を単位とした様々な組み合わせによって物事が成り立つと云う発想は、古代からあったようです。ちょっと横道にそれますが、この数字の縦横斜めを合計して見て下さい。

いずれも其の和は 15 となります、「五」は不思議な数字ですね。

六 一 八
七 五 三
二 九 四

さてそろそろ、この話しの纏めにかかりましょう。この五行を陰陽（えと）と組み合わせて配分すると、答えが出ます。

●木→甲乙

甲は「(木) きの (兄) え

乙は「(木) きの (弟) と

●火→丙丁

丙は 「(火) ひ の (兄) え

丁は 「(火) ひ の (弟) と

●土→戊己

戊は 「(土) つち の (兄) え

己は 「(土) つち の (弟) と

●金→庚辛

庚は 「(金) か の (兄) え

辛は 「(金)か の (弟)と

●水→壬癸

壬は 「(水)みず の (兄)え

癸は 「(水)みず の (弟)と

さて、お待たせしました。それでは早速、西暦 2019 年度の世を、占ってみましょう。

2019 年の干支は、十干が己(訓読みで「つちのと」)にあたる年回りとなっています。この十干は読んで字のごとく、全部で 10 段階あり、甲から始まって癸まで行きますと、また再び最初の甲に戻ります。これを 10 年周期で永遠に繰り返します。この 10 の段階をそれぞれ、甲・乙・丙・丁・戊(ボ)・己(キ)・庚(コウ)・辛(シン)・壬(ジン)・癸(キ)と呼びます。

2019 年度の十干である己(音読みで「キ」)は、甲(コウ)から始まり癸(キ)で完了する流れの中の 6 番目に当たり、日本では昔から、「つちのと」と読んで居ます。

一方、十二支は亥(い)年ですので、十干(じっかん)と十二

支を合わせて、「己亥」(つちのと・い)の年周りとなります。余談になりますが、この十干と十二支の組み合わせは全部で60通りしかありませんで、よく還暦のお祝いなどと云いますが、これはめでたく一巡しましたね、ということです。赤い「ちゃんちゃんこ」を着てゴルフをする、などと洒落たことを言いますが、これは今でも中国では赤ん坊が生まれますと赤い布で包(くる)む習慣から来ているんですね。

●「己」(つちのと)は、先程、お話させて頂きましたが、甲に続く十干の6番目に位置しています。甲から始まり、癸(キ)で終わる十段階は、一本の草木に例えられた、生命体の一生を表しています。甲は甲冑と云う言葉がありますように、未だ殻に閉じ込められています。草木の芽としてやがては殻を破って顔を出す一歩手前の状態を意味する象形文字なのです。乙は芽は出たのですが、外の空気が冷たく、風にも煽られ、未だひ弱な状態です。「乙」の字がくねっているのは、其の様子を表現したものです。「丙」の字の

上の一は陽気を表し、生命・エネルギーが盛んになり、たかまることを意味しますが、冂は囿いを表し、それに入と云う字が書いてあります。つまり、陽気が囿いの中に入り、やがて陰気が生ずる気配が感じられるのです。「丁」は其の前の年の丙(ひのえ)の上の一を承けて、更に陽気が進んだ段階を示し、春から延びて来た陽気の最終的な段階に入って来ます、季節で云いますと、四月、五月に当たります。「戊(ボ)」は、草木が繁茂して旺盛な様子です。「己」は長い糸の先が曲がっているのですが、起の原字で、草木が伸びて行く様子を表現しています。

「辛」まで行きますと、これは針など尖った物で刺激するところから草木が枯れ始める状態を表しています。「壬」は女性が妊娠した形を表しており、内部に新しい生命(種子)を妊らんだ状態で、これが「癸」まで行き着きますと、種子の内部が成熟した状態となります。このように十干とは、草木が硬い殻を破って芽

を出し、やがて成長して、葉が繁り次の世代へ種子を残し枯れ果てて行くと言う一連の営みを 10 の段階に分けて表しているわけです。凄い観察力と洞察力ですね。

実は 2014 年は甲から始まる、向こう 10 年間のトップバッターだったのです。2015 年度は乙で、2016 年度は丙です。昨年 2017 年度は 10 年 one cycle の四段階目ですので、これは事が成就するには、本年 2018 年と同様に、もう少し我慢と努力が必要と云うことになります。

ここで、話しをもう一度整理してみましよう。2015 年の「乙」と云う字は前年の「甲」で硬い殻を破り出て来た若い芽が、外の寒気が未だ強く、真っ直ぐに伸びかねて曲がりくねっている象形文字で、紆余曲折の状況を表しています。一昨年の年周りである「丙」には炳(あきらか)とか、柄(え)と云う字のように、四方に延びる権力の意があります。昨年 2017 年の「丁」は、植物の芽が伸びようとして地表にあた

り、なお表面に出きれない時期と云えます。つまり「丁」と云う字は、新旧両勢力の衝突を意味していました。「丁」が在来の勢力を意味する時は、「さかん」と読みます。小池さんは都知事選で圧勝しましたが、国政選挙に踏み込んでしまったのは残念ながら「丁」の時勢に逆らうものだったのです。余勢を駆(か)る時期ではなかったのです。本年 2018 年の「戊」は、「茂る、繁茂する」に意味になります。つまり万物が茂り繁茂する」ので、剪定が必要でした。余談はこれくらいにして、それでは 2019 年(平成 31 年)の「己」について考察してみたいと思います。


●「己」の三本の横線は糸を、二本の縦線は糸を分かつ形を表しています。糸筋を分けることから乱れを正して治める意を表しており「紀」の原字となりました。為政者はこの紊乱した糸の端緒を引き出し、糸のもつれを伸ばし、規律を正して明確にし、規律を正して明確にし、己を正すことが大切であることを暗示していま

す。

それでは次に十二支の「亥」の方を見てみましょう。

●「亥」は核と同義です。亥の上の「𠄎」なべぶたは蓋(ふた)を表し、下の部分は男女二人が並んで何事か孕み生もうとしている象形文字です。陽の気は蓋をされたまま全く地中に閉じ込められて、陰極まっている状況を示し、しかも起爆性エネルギーを内蔵しています。昔の人が「亥」に「猪(いのしし)」を当てはめたのは猪が猪突猛進の起爆性を持った動物だったからです。関東大震災(1923年癸亥)や阪神淡路大震災(1995年乙亥)は何故か亥年に起きています。

●先に、お話をさせていただきましたが、十干(己)は木の幹であり重要です、一方で易學では十二支(亥)は枝葉ですので、参考程度にみます。2019年度をもう少し大きな範疇で概観してみたいと思います。まず十干ですが、甲・乙・丙・丁・戊(ボ)・己(キ)・庚(コウ)・辛(シン)・壬(ジン)・癸

(キ)の流れのなかで、大変つらい「**辛**」の巡り合わせが再来年の2021年にやって来ます。一方、十二支の「亥」年を占いますと坤為地(こんいち) と云う卦が出ます。この卦は極陰の象で空虚、無、衰微を暗示しており、陽の気が尽き果てた純陰の状態、2019年が最悪の年であることを暗示しています。

●来年(2019年)から明明後年(2021年)の運気をざっと見た感じから、一連の流れを察するに、来年は今年より荒れそうです。地震や津波などの天変地異、災害や経済的混乱が予想されます。人心の乱れも心配で、各国ともに為政者の手腕が問われる年になりそうです。

過去の己(キ・つちのと)亥(ガイ・い)の年周りには、以下のような出来事がありました。

1959年昭和34年

- ・ 1月1日 - キューバ革命。

- ・ 1月8日 - シャルル・ド・ゴールがフランス初代大統領となる。
- ・ 3月10日 - チベット蜂起
- ・ 3月28日 - 日米安保条約改定阻止国民会議結成。
- ・ 4月10日 - 皇太子明仁親王（今上天皇）と正田美智子が結婚、
- ・ 4月25日 - セント・ローレンス運河の船舶通航開始、五大湖と大西洋相互間の運航が可能となる。
- ・ 4月27日 - 中国国家主席に劉少奇を選出、毛沢東は党主席に専念。
- ・ 6月3日 - シンガポールが独立。
- ・ 6月30日 - 沖縄・宮森小学校米軍機墜落事故。死者 17 人、負傷者 100 人。
- ・ 8月8日 - 台湾で、2000 人以上が死亡する洪水発生。
- ・ 9月26日 - 伊勢湾台風、明治以後最大の台風被害をもたらす。死者 5041 人、被害家屋 57 万戸。

- ・ 10月31日 - ベルギー領コンゴで暴動発生。

1899年明治32年

- ・ 1月23日 - フィリピン共和国政府を樹立し、フィリピン革命は頂点に達した。
- ・ 2月4日 - フィリピンのマニラで暴動が発生（米比戦争の開戦）。
- ・ 2月6日 - アメリカ合衆国上院において、米西戦争の講和条約が批准される。
- ・ 8月28日 - 台風により別子大水害が発生。土石流により513名以上が死亡。
- ・ 10月11日 - 第二次ボア戦争が開戦。
- ・ 10月18日 - コロンビアで千日戦争勃発。
- ・ 12月2日 - 米比戦争: ティラード・パスの戦い
- ・ 12月26日頃 - ボア戦争: マフェキングの戦いが始まる。

以上、時世の知らしめるところを率直に、易學の観点から申しあげる次第です。

以上

2018年12月31日 内藤 彰信

易學聯合學術院總裁

(台北市中山區天津街六二號六樓)

実践学園学園長 副理事長

丸全昭和運輸(株)社外取締役

中央大学商学部特任講師

追記

以上の占いは旧暦に基づいておりますので、少なくとも来年2月4日頃までは、旧年度(2018年度)の靈氣が漂っております。

(参考)

「辛」の年周り

↓

<http://chizai-tank.com>

<http://chizai-tank.com/naito/naito201212.htm>